

物件概要書 清閑亭



敷地（国の史跡・小田原城跡の一部）が描く眺望は“The小田原別邸、の証。

清閑亭は、明治時代に活躍した黒田長成（ながしげ）侯爵の別邸として、明治 39 年（1906）に建築され、趣のある庭園を備えている。この地は小田原城三の丸土塁（国指定史跡：平成 18 年（2006））の一角を占め、晴れた日は母屋から真鶴半島や大島を望む相模湾や箱根山を一望できる小田原の別邸の中でも格別な眺望となっている。平成 17 年（2005）に建物が国登録有形文化財に指定されている。

建物は、格式ばらない数寄屋風の造りで、平屋と二階家が連なる構成となっている。建物内には板絵襖や網代組天井など優れた意匠が随所に見られる。

現在、NPO 法人により街歩きの出発点として活用され、居間はカフェとして訪れた人の憩いの場にもなっている。

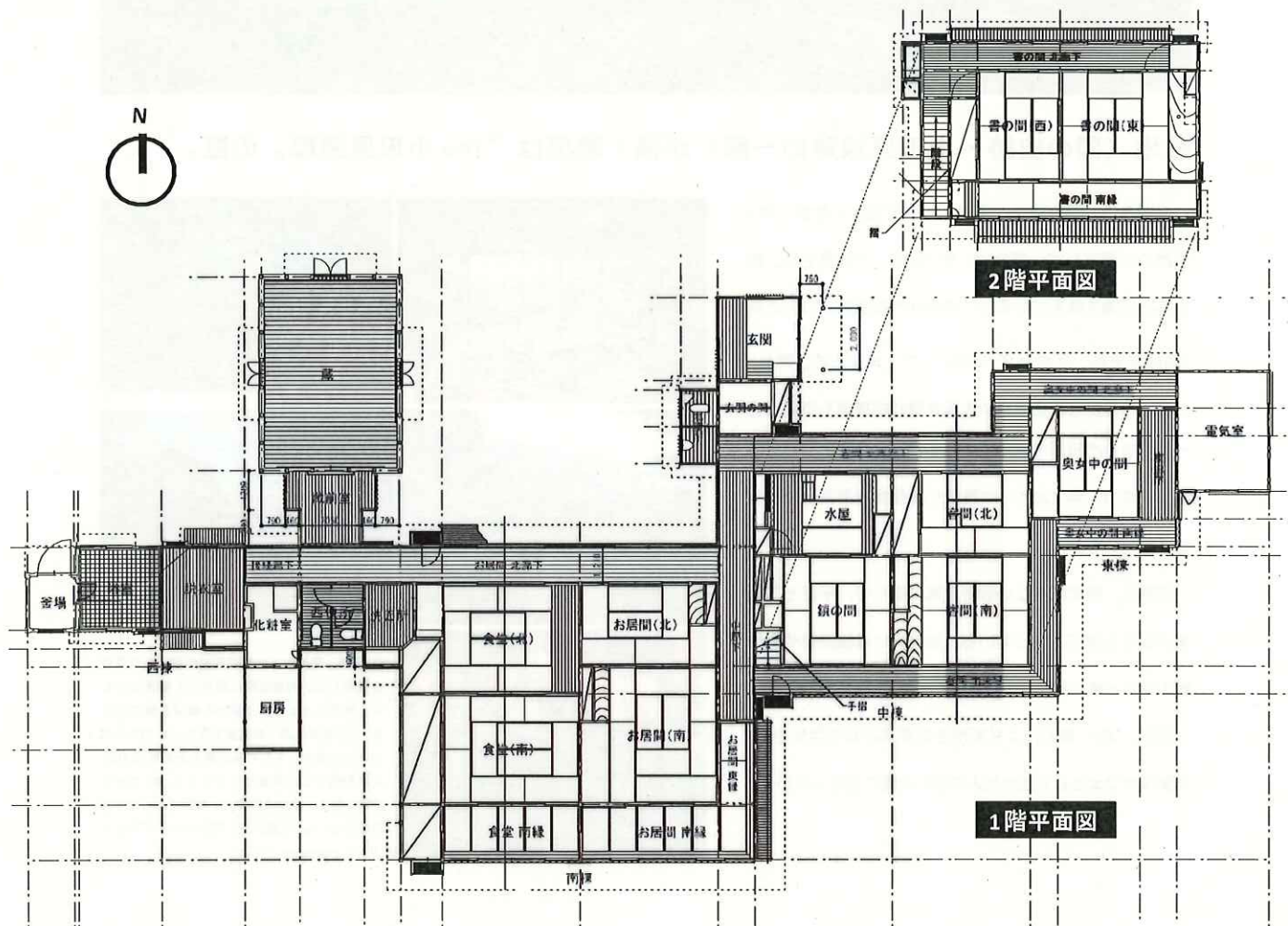


1| 客間。建具などの構成部材は細く、水平性を強調しない内部空間は限りなく簡素なつくり。四季によって移り変わる眺望を際立たせる。2| 2 階から海への眺望を見る。3| 庭からは木々と街並み、そして海が見える眺望は山の上の別邸らしい眺望となっている。4| 庭から建物を見る。建物は雁行し、場所ごとに違う雰囲気をつくる。5| 蔵内部。現在ではギャラリーなどとして利用されている。



〇〇〇〇〇〇 主な敷地内通路

google map に加筆



基本情報

所在地	小田原市南町1-5-73	所有者名	小田原市
-----	--------------	------	------

地域地区等

用途地域	第一種中高層住居専用地域	建ぺい率	60%
防火地域	準防火地域	容積率	200%
その他	第2種高度地区、景観計画重点区域、宅地造成規制区域		

施設概要

敷地面積	5,561.46㎡		
建築面積	276㎡		
延べ床面積	396.1㎡		
棟別概要	西棟（書院）：木造平屋・瓦葺入母屋造 東棟（小書院）：木造2階・瓦葺入母屋造 東棟（小書院）離座敷：木造平屋・瓦葺寄棟造 葺：木造モルタル塗り		
建築年	明治39年（1906）	主要用途	社会教育施設・飲食店
位置付け	国登録有形文化財（建物）、国史跡（土地）、歴史的風致形成建造物		

敷地内インフラの状況

項目	種別	備考
ガス	LPガス	—
電気	東京電力	契約内容 20 kVA
上水	公営（小田原市）	接続済 引込み管φ25 mm（北側）
污水・雑排水	公共下水	接続済 引込み管φ150 mm（北東側）
雨水	雨水樹	接続済 引込み管φ150 mm（北東側）

総合的価値とエリアの可能性

天山尾根の自然地形を生かした小田原城三の丸の一角を占め、箱根山系から小田原のまち、相模灘を一望することができ、ここにしかない素晴らしい眺望の良さを生かした活用が望まれる。

建物は、雁行状の平面をとる優れた外観と茶会でのもてなしを意識した嗜好をこらした意匠を持つ格式張らない数寄屋建築である。部屋毎に垂木などの意匠の違いや欄間、建具など細部にこだわった意匠が施されており、これらを生かした空間づくりが期待される。

小田原駅周辺から南町や板橋への回遊拠点となっており、小田原の歴史文化（別邸文化、なりわい文化、食文化等）を生かした文化観光によるまちづくりを推進する上で重要な建物であることから、文化・歴史の発信拠点として、小田原ならではの飲食を提供する食事処としての活用等も検討可能である。

アクセス

- ・JR東海道線、小田急線「小田原駅」下車 徒歩15分



google map に加筆



黒田長成（くろだながしげ）

公家・旧大名、政治家。福岡県出身。慶応3年5月5日～昭和14年8月14日（1867年6月7日～1939年8月14日）旧福岡藩主黒田長知の長男。明治11年（1878）家督を相続、17年（1884）侯爵、英国ケンブリッジ大学留学。帰国後22年（1889）式部官となるが翌年に辞す。25年（1892）貴族院議員、27年（1894）から長く貴族院副議長を務める。大正13年（1924）枢密顧問官。

出所：国立国会図書館『近代日本人の肖像』<https://www.ndl.go.jp/portrait/datas/72.html?cat=36>